

# 爽風

社会福祉法人 そうふう会広報誌

2020年 秋 第18号

# 巻頭言

社会福祉法人そうふう会 理事長 山田義昭

コロナ禍の小規模事業所

社会福祉法人の経営規模の拡大が提唱されて久しい(1998 年社会福祉基礎構造改革・中間まとめ)。全国 16,678 法人のうち退職手当共済制度に加入している法人の約 9 割が加入者 100 人未満となっているようだ(2013 年)。

大規模化の話しではなくて、コロナ感染が蔓延する状況で、そうふう会のような小さな法人(事業所)は、どのような影響を受けているのか、知っておく必要があります。第3波の到来が懸念され、感染の可能性が格段と増える中、小規模事業所はどうなっていくのでしょうか。

以前から感じていたのは、事業所に位置付いているメンバーは、たとえ小規模であっても「恵まれた」条件にいることが感じられました。就職した方が会社から締め出されたり、在宅の方の家族が収入の元を絶たれる状況が考えられるとき、在宅支援の必要性が課題と感じていました。

次に、学校が3月に閉鎖される事態となったとき、事業所は継続して活動を続けることができました。介護事業所が厳しく「社会的距離」を取ったのと少し違ったスタンスだったと思います。メンバーの家族の方も心配ではあったようですが、とことん困り果てるという状況でもなかったようです。いやいや、という声もあると思いますが。

やはり小規模な事業となると、やはり、自身で事業所を守らなければならない状況 に立たされてしまいます。情報の収集、対応の判断、職員のシフト、器具の整備、 人・もの・金・情報が不十分な中で対応を迫られることとなったと思います。何事も なく経過しているので、よかったよかったと感じていますが、メンバー・職員の感染 があった場合、運営は危機に瀕することは明白であることも思い知らされました。

地域の連携を、どうするのか。ことが起これば一致協力の体制が組めるとは信じていますが、日頃からの交流はもっと大切にしないといけないことを、痛感しています。

# 事業所トピックス

## ☆サンシャインけやき☆

コロナの中、総てのイベントが中止になり、 どうしたら売り上げを・・・・と考えあぐねていたら マスクの売り上げがぐんぐんと伸び、腕を痛める程、マスク制作に 励みました。

気づいたら夏も終わり10月末 日暮れも早く、肌寒さも感じる この頃です。

薄着だったメンバーの服装も急に冬用の厚手に変わりました。 どんな状況であれ、メンバー達の日常は変わらず、いつも通り 1便の9時半頃けやき号で登所、手洗い・消毒・体温を測っている ところで2便到着

全員揃った所で、ラジオ体操第1・第2とそれぞれのアレンジの体操の 始まりです。

その後10時半頃から作業に入ります。(刺し子・マスク作り・ミニケース・ テッシュケース)など

疲れると健康作り?と駐車場、新川の土手迄歩き、気分転換を計ります。 メンバーの人数が少なくなり、今後どうなるか不安でいっぱいですが、 休まないで毎日登所できる様に作業所内の雰囲気づくり、支援の方法等、 毎日試行錯誤しながら過ごしてます。

大野ひとみ

## 合ひろがりはうす合

この秋は、いつもと違いゆっくりと、季節の雑貨づくりなどに取り組んでいます。イベントに向けた準備や制作が少ない分、収入が減っているのは確かですが、新たな着想やアイデアがひらめくのを待つのも、良い時間が与えられているのかなと思います。乾燥こんにゃくのラベルのデザインを変えたり、新しく木材を使った作品を模索したり。材料を見ながら、みんなであれこれ考えあっています。今のところ、クリスマスに向けた雑貨など、これまでにない作品を店頭に並

べることができ、道行く人の目を時々留めることができています。

そんな中ですが、この状況に対して私たちも何か前向きに働きかけることをや ろう、との想いから、「シトラスリボン」というムーブメントに協賛し、シトラ スリボンを使った作品の制作に、取り組みはじめました。

感染の拡大を抑え、経済の衰退を抑えることを目標に、私たちはそれぞれの現場でがんばっていますが、「シトラスリボン運動」が提示するのは、もし感染してしまってもそれを「差別」「偏見」に結び付くことにさせない、的確に対応し受け止められる地域にしよう、という視点です。安心して検査を受けられ、安心して医療に身を預け、医療者が安心してその仕事に向かい、また戻ってこられる地域にしておこう、という視点です。それがいつか来る「コロナ後」の社会をも、より良いものにできるという展望をもっています。この世界的・歴史的な災禍にあっては小さな運動ですが、大事な視点を提示しているなあと思っています。

シトラスリボン・プロジェクト



https://citrus-ribbon.com/



ひろがりはうす 松崎

#### 血ふれ愛たかつき血

・この間、新型コロナウイルスの影響により、お店に足を運ばれるお客様も少なくなっていましたが、秋ごろから少しづつではありますがお客様が戻ってこられている状況です。商品の売れ行きもマスクだけでなく、様々な商品が売れていくようになってきています。外部販売やイベントでは9月「たかつき〇しぇ」、「フラムテラス@大阪ガス」、10月「ハート to ハート@安満遺跡公園」に感染予防対策をしての出店をすることができました。

販売の機会をいただけることを本当に感謝しています。

ふれ愛たかつきのご利用者様は大きく体調を崩されることなく仕事を頑張っておられます。引き続き体調には気をつけながらスタッフも共に力を合わせて頑張っていきたいと思います。

## ★きらきら★

コロナで、何も出来ない。何もやれない。日々が続いています。

スクラム高槻「地元のお店応援券」

高槻市の協力で、スクラム高槻「地元のお店応援券」、両方の券が使えます。 のポスターを貼れました。

店頭販売だけの施設ですが、少しだけショップらしくなって売上アップになりました。





今年は、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)でイベントも販売も中止だらけの1年でした。

そんな中でしたが、散歩だけでなく河川敷のテニスコートでテニスにもチャレンジしました。

余暇活動で過去に草木染、藍染をしてきましたが、今年は初めてタイダイ染めをやってみました。











#### **二川 アスカンパニー**

あいかわらず新型コロナウイルス感染症の状況が良くならない日が続いている 今日この頃ですが、皆様は如何お過ごしでしょうか?

バイアスカンパニーでは、毎日の朝礼で感染対策について繰り返し注意喚起しながら、また、定期的な消毒や換気を行いながらの活動が続いています。

このような状況が続く中では、外へ出て行く活動が出来ず、行事やレクはもちろんの事、外部販売も軒並み中止などで活動出来ず、所内で淡々と目の前の作業に取り組むばかりで単調で季節感も無い日々が過ぎていっている感覚になりますが、ひたすらこの災難が過ぎて行く事を待つのみと言った「我慢」「我慢」の気持ちで細々と活動しています。

その中で、何ヶ月ぶりかで 10月28日に卓球を春日ふれあい文化センターで行いました。数名の参加でしたが、少しでも運動になったり気分転換になればと思い、11月も企画しています。

たなべ





illust/@hidekiccan

バイアスカンパニーのご利用者様からの投稿です。

パンデミック(新型コロナウイルス)を身近に接する様になりバイアスカンパニ ーでも対策を指導員の方々も、考えて下さり、事業所では手洗、マスクを着用、 作業時間はサンミツをさける様午前と午後に分かれてする。作業日誌にはその日 計った体温を記入、色々な気配りがありスタッフには感謝。とにかくコロナウイ ルスは人と人との感染である。その原因ははっきりしていない事実があり、ただ その感染は経済、働けず倒産する会社が馬鹿にならず、福祉の世界でも作業所が 経営困難な場所があり、バイアスカンパニーの様にしっかりとした運営をしてく ださっているのには本当に感謝している。特にA型またはB型作業所は益利団体 ではなく福祉法人である。当事者の方々の社会復帰、リハビリ、を中心としてい るので、エピデミック(感染病)などに対する何らかのサポートがなくては、経営 はなりたたないのはあきらかである。バイアスカンパニーでは、田辺さん、新井 さん、山田さん、山本さんには新型コロナウイルスから我々利用者を守ってくだ さり本当にありがとうと言いたい。コロナと福祉分野、医学的には違っているし かし同じ病気である。コロナは不特定多数の感染者があり、全くランダムなそし て感染場所、感染経路、感染人、が分らない。もちろん免疫(人工心肺装置)は開 発されても足りない。

私は医学で好きなのは産婦人科で、産れいづる新たな命、その大阪医大産婦人科で生まれた赤ちゃんとそのお母さんに退院する時にプレゼントする、バッグの裁断をしたのは嬉しく思えた。コロナで苦しんでいる患者さんを TV などで見ているのかもしれない。

バイアスカンパニーで得た収穫は、マスクやバッグ、お守りなど、人々に喜ばれる作業が出き福祉における経済のあり方を考えられた事であり、新型コロナウイルスには負けない自信が持てた。

## **NEWS NEWS NEWS**

#### わたしたちの動きく7月~11月>

7/9(木) 法人事業所会議

10/8(木) 2020年度第2回理事会

11/12(木) 法人事業所会議

8~9月の法人会議は中止、情報共有シートを作成し、各事業所で入力したうえでまとめ、活用いたしました。

#### 秋の足跡

新型コロナ感染症拡大に伴うイベント中止が相次いでいます。

そんな中感染の落ち着いていた 1 0 月に、何とか開催にこぎつけたイベントもありました。(食の文化祭、ハート to ハート安満遺跡公園、フロムテラス大阪ガスなど)

10月からは高槻市障がい児者スポーツ教室が再開され、ふれ愛たかつき、きらきら、ひろがりはうすが参加しました。

12月には、「たかつきまるしぇ」が、高槻市障がい福祉課様、アクトアモーレ様のご協力で開催され、そうふう会から2事業所が参加いたしました。

出店参加のお誘い、またご来場ご協力いただいた皆様、ありがとうございました

なお、参加予定で中止となったイベント等は、以下の通りです。

高槻市健康フェア、高槻市民ふれあい運動会、ふれあいひろば、社協まつり、たかつき NPO 協働フェスタ、高槻事業所連絡会バザー、ゆうあいセンター秋の野外交流会、高槻市福祉展など。

中止が決定している今後のイベント等

スポーツレクリエーションの集い、天神祭りなど

「高校生がつくる冬まつり」(ゆうあいセンター)は、集まらない形式での「何か」 を模索中だそうです。

「ふれ愛たかつき」のある商業施設「ミング阪急高槻」は、11月のリニューアルオープンとともに名称が変更され「エミル高槻」となりました。たくさんの新しい人気ショップに入れ替わりました。この賑わいが「ふれ愛たかつき」まで波及しますように・・・・!



社会福祉法人そうふう会のホームページ 法人の事業内容、各事業所の活動内容など発信しています。

www.byus-co.com/ ぜひごらんください!

そうふう会



#### 編集後記

夏が終わると秋の諸行事が動き出し、その準備に追われながらも、イベント当日のたくさんの笑顔で達成感を分かち合うことができていたこの時期。準備に追われることがないというのは正直ほっと一息感もあるものの、ここまでくるとやはり物足りなさも。気が付けば冬支度の季節となりました(そして編集も遅れm(\_)m)。過去のイベント画像をつらつら眺めていると、「うわっ密!」と今では考えられない状況が当たり前のようにあって、「これをやっていたのかー」と、今更驚きます。どんな時代や文化にも、人々の営みの中に生活や生産には直接結びつかないような、でも生活や生産・再生産のための「祭り」が発生し、労力を費やして受け継がれているのには、それなりの理由があるのでしょう。今その代替を多くはオンラインでするという発想がありますが、これがネット以前だったらどう対処していたでしょう。人類史が蓄えてきた知恵は、そっち側にもあるような気がするのですが。

(ひろがり 松崎)

#### 社会福祉法人そうふう会広報誌『爽風』(そうふう)第18号 2020年12月発行

#### 社会福祉法人そうふう会 高槻市若松町 7-5 栄ビル 2 F

★きらきら 高槻市辻子 2-6-18

貸サンシャインけやき 高槻市南庄所町 17-25-101

**買**バイアスカンパニー 高槻市若松町 7-5-2F

★ひろがりはうす 高槻市八幡町 6-4

<u>■</u>ふれ愛たかつき 高槻市城北町2-1-18エミル高槻2F